

実相寺の仁王さん

日本のふしぎな話
「仁おうとどつこい」から

昭和五十六年一月一日号

岩本の実相寺に行ったことがありますか。実相寺は今から七百三十五年前の久安年間に建てられた市内で一番大きなお寺です。

ここにある江戸初期に作られた一對の仁王の木像はすばらしく、市の指定文化財になっています。

今回は、この仁王さんのお話です。

高さ241センチの仁王像



昔、日本に仁王という力持ちが住んでおった。相撲を取つても、綱引きをしても一度も負けなかつた。「わしと力くらべをするものはおらぬか」仁王は日本中を回つたが、だれも相手にならない。「仁王どん隣の国の中国にどつこい」という力持ちがいるそうなのと教える者がいた。「よし、力くらべをしてみよう」仁王は舟をこいで中国へ出かけていった。

ほうぼう探し、どつこいの家を見つけたがどつこいは留守で、ばあさまがいた。「わしは日本一力持ちの仁王だ。力くらべをしよう」とやってきたのに残念じゃ」というと、ばあさまが答えた。「そろそろ、お昼じゃせめてつてへ

るから、お待ちなさい」「仁王が待つっていると、ばあさまが飯のしたくに取りかかった。大きな釜に米を何俵も入れ飯を炊きだした。ふしぎに思つて「だれが食うんじや」と聞くと「息子のどっこいじやよ」。「仁王はびつくり、これはかなわん、今のうちに逃げようと思つていると、ズツシン、ドツシン、ズシン…。」ばあさま、あれは何の音じや」「あれか、あれは息子の足音じや」。「仁王はあたりを見まわしたがどっこいの姿は見えない。まだ遠くを歩いてゐるらしい。そのうちに、地震のように家が揺れだした。「便所をかしてくだされ」「仁王は便所から逃げた。

どっこいが帰つてくると入口に大きなわらじがあつた。「お客さん？」「日本の仁王がおり前と力くらべにやつてきた。今、便所に入つ

ている」ところがいつまでたつても出てこない。そつとのぞくといない。「力くらべに来たのに、どつして逃げるのだらう。連れもどしてへる」とどっこいは大きなかりを持つて追いかけた。

遠くに仁王の舟が見えた。どっこいは「力くらべをしないで逃げるとはひきよう」と言つと、舟めがけていかりを投げた。いかりは舟につきささつた。

仁王は舟をこぐ。どっこいは綱を引く。お互いに力持ち。とうとう綱が切れてしまい、仁王は海に落ち、どっこいも力余つて



海に倒れた。ト、ト、ト…大きな津波が起きて日本と中国に押し寄せ、大勢の人々が死んだ。

「悪いことをした。もう力くらへは一生しないから許してください」仁王は中国にも行ってあやまり、日本に帰ってからはお寺の門番になった。どっこいも日本にやってきて、あやまり「もし何か力のいる時は、おらを呼んでください。そうしたら一生懸命働きますから」そう言いつて帰っていった。それで、今でも力を出すときに人々は「どっこいしよ」とどっこいを呼ぶのだとか。



東相寺